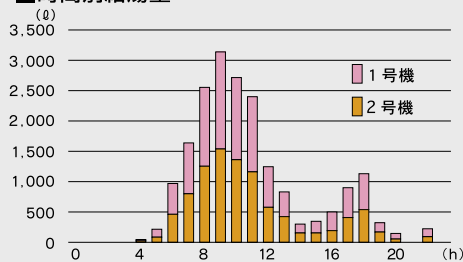


新築時に手間要らず、省コストの給湯受託制度を採用

○若葉会蔵王病院（広島県福山市）



■時間別給湯量



広

広島県福山市蔵王町の小高い丘に建つ260床の若葉会蔵王病院は、2005

年の建て替えの際、空調にビル用マルチエアコンを採用、給湯には給湯受託制度を採用し、業務用エコキュートを導入しています。給湯受託制度とは給湯事業者が顧客へ温水を供給するサービスで、

- ① 24時間安定した給湯
 - ② 安いランニングコスト
 - ③ 初期投資が不要
 - ④ 給湯に関する手間が不要
 - ⑤ 機器トラブルからの開放
- 蔵王病院に採用された給湯システムは、加熱能力75kWのCO₂ヒートポンプユニットと26000ℓの

密閉タンク2槽を持つ貯湯ユニットで構成されています。主にコストの安い夜間電力により90℃で貯湯し、貯湯ユニットから病院へ給湯する際は給水と混合し約60℃で供給しています。給湯は患者の入浴サービスや給食調理、洗面等に利用されており、早朝から夜遅くまで負荷があります。給湯のお湯は病院全体を24時間循環しており、いつでもどこでも快適なお湯が利用できるようなっています。

病院事務局から高い評価

「当初の建て替え計画では油焚きボイラを考えていましたが、経済性と手間の不要さを考えて給湯受託制度とエコキュートに決めました。運転開始から1年3ヶ月になりますが、想定どおりランニングコストの低減を実現しています。また機器故障時の対応がすばやく行われるなど、設備の保守管理などに煩わされることがなくなりました」と病院事務局には好評です。設備の信頼性が特に求められる病院で、現在も安定した給湯が行われています。

給湯受託制度について

